

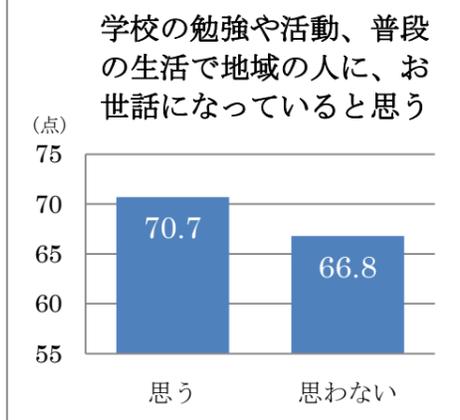
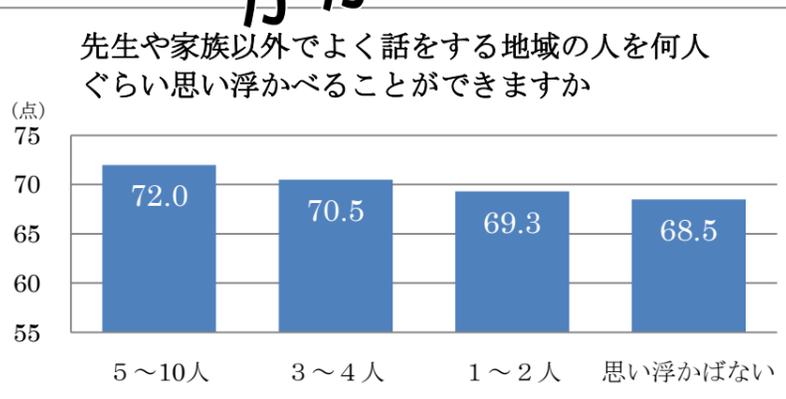
子どもたちを大きくたくましく育てるために！

雲南市教育委員会

平成23年度雲南市小中学生生活実態調査と平成23年度島根県学力調査との関連分析より

雲南市教育委員会では今年度、市内小学4年生～中学3年生約2,000人を対象に生活実態調査を実施し、県学力調査平均点との関連を分析しました。その結果、得点と関連する生活実態（体験・意識）があることがわかりました。

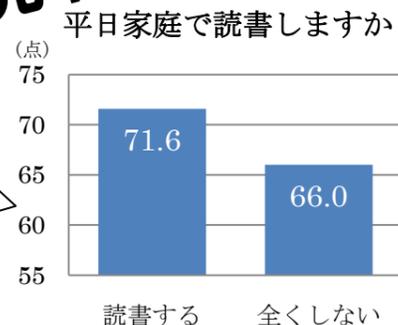
地域の人との かかわり



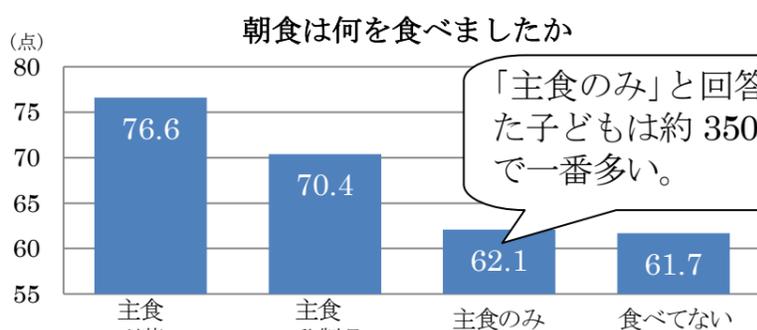
＝グラフの見方(例)＝

「読書をするか？」という質問に、「読書する」と回答した子どもたちの学力調査平均が100点満点中71.6点であり、「読書しない」と回答した子どもは66.0点でした。この平均点の差は、統計学的にみて誤差ではなく意味のある差でした。全体の平均点は70.2点でした。

読書



バランスの 良い食事

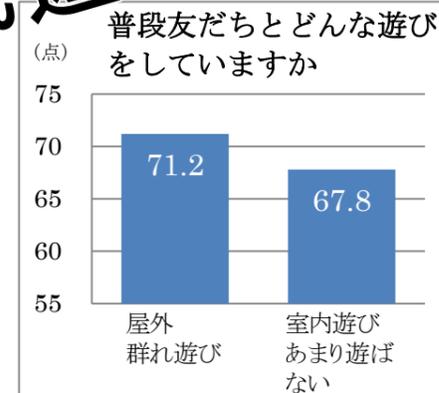


「主食のみ」と回答した子どもは約350名で一番多い。

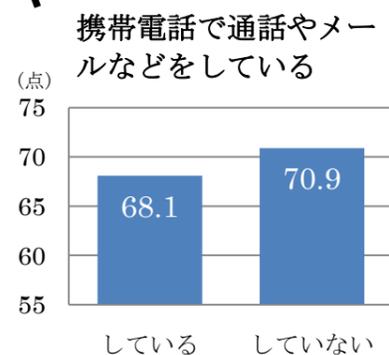
主食：ご飯・パン・麺
副菜：野菜・きのこ・いも・海藻料理
主菜：肉・魚・卵・大豆料理
乳製品：牛乳・乳製品



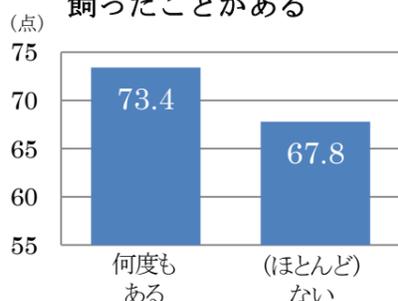
外遊び 群れ遊び



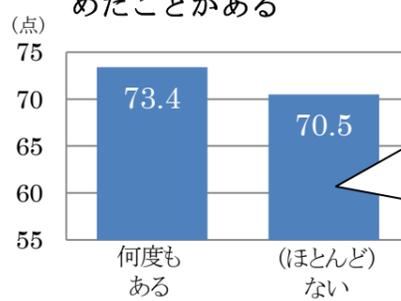
メディア接触



学校以外で昆虫や動物を飼ったことがある



夜ゆっくり月や星をながめたことがある



体験

「ほとんど経験がない」とする子どもの割合は全国調査よりも多い傾向。

今回の分析結果は、例えば「読書をすれば必ず得点が伸びる」ということを証明するものではありません。しかし、こうしたことは、もともと子どもたちに体験して感じて欲しいことです。

そして、これらは、学校だけで充実させることはできません。

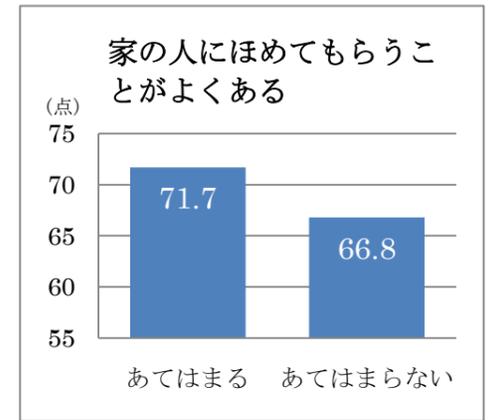
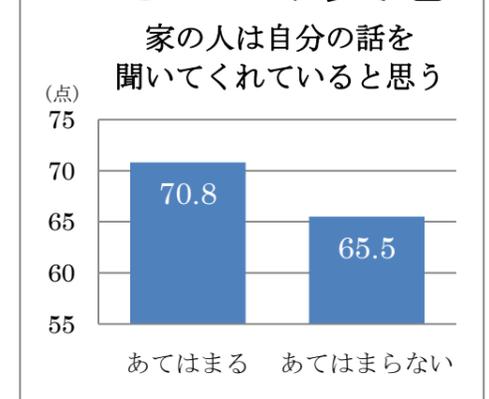
子どもたちの生活実態や意識が向上するように、ご家庭や地域でもさまざまな取り組みが行われることを願っています。

= 子どもの意識と学力との関係 =

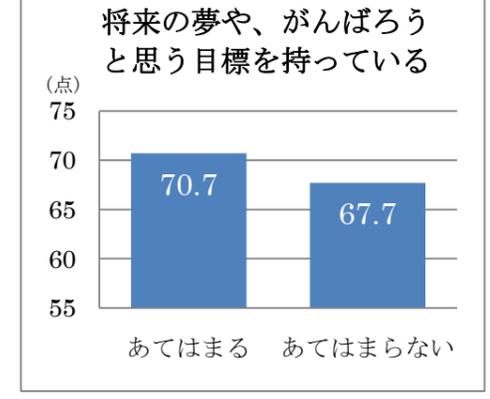
ここに示したような子どもたちの意識（考え・感じ・思い）は、これまでの様々な体験や周囲からの言葉かけなどによって作られてきます。
 「自分のことを好きになれ！」と言っても、それで子どもは自分のことが好きになるわけではありません。



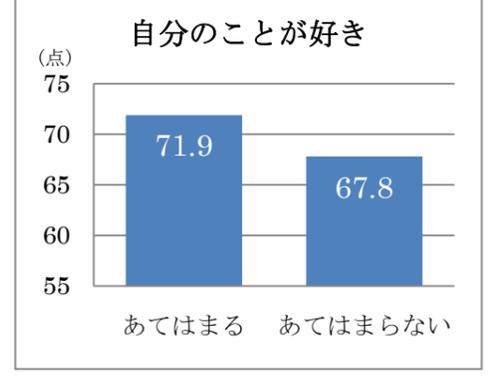
家族に認められているという実感



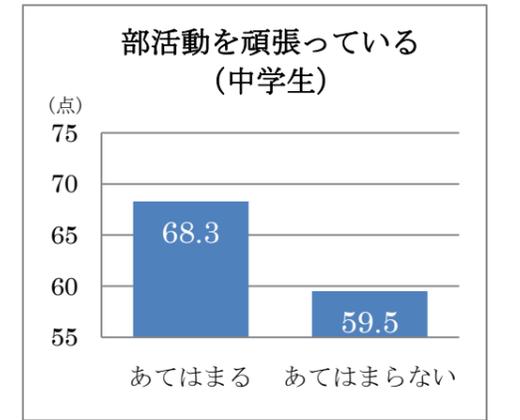
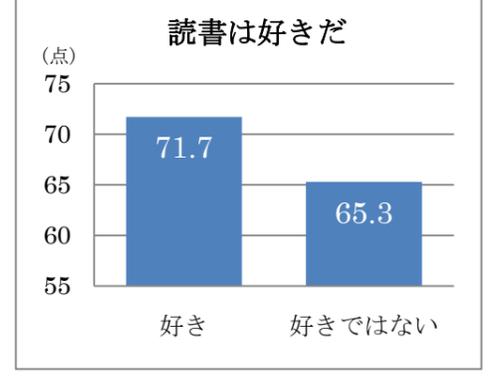
将来の明確な目標



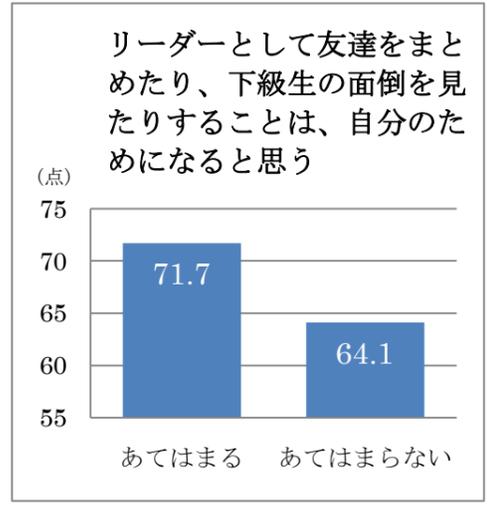
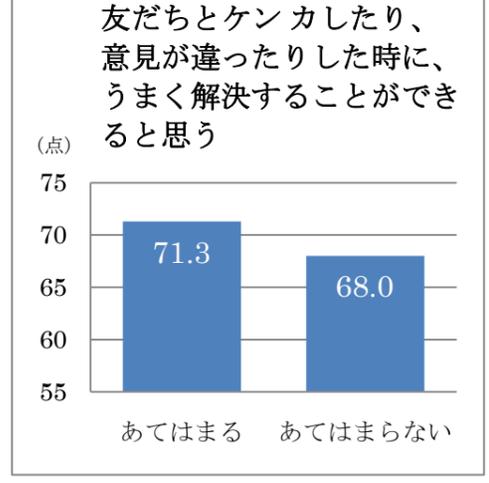
自分が好き！



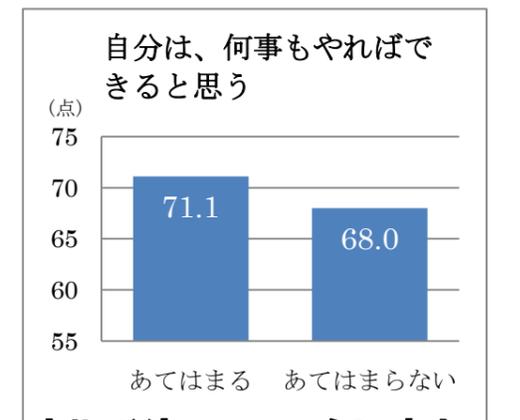
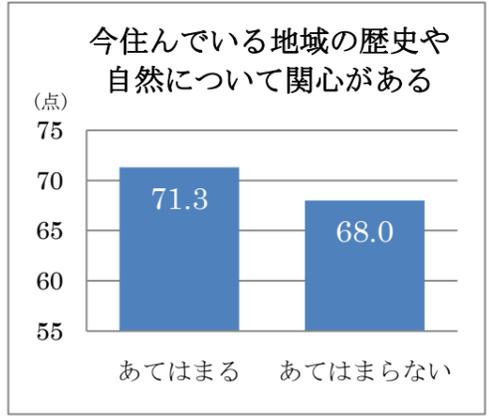
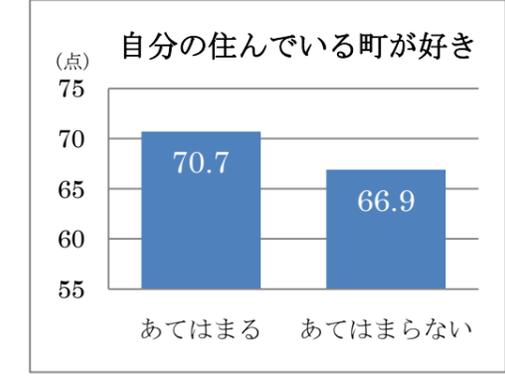
夢中になれるもの！



人(社会)との かかわり・貢献



ふるさと雲南への関心



挑戦・可能性 自身への期待

ここに示した意識の多くが“自尊感情”という言葉でまとまりそうです。自尊感情とは、欠点や弱点も含めて自分自身を価値ある者だと感じる感覚です。
 自尊感情には次の4つの柱があるといわれています。
 ☆周囲から愛され包まれている「包み込まれ感覚」
 ☆友だちと話が通じる「社交性感覚」
 ☆自分は頑張ることができる人間だという「勤勉性感覚」
 ☆自分のことが好きだという「自己受容感覚」
 (参考：池田寛著『学力と自己概念』2000 解放出版社より)

また、自尊感情の高低は(達成度) / (本人の願望) という式 (: 本人の願ったものがどの程度うまくいくか) で表わされるそうです。子どもたちは親や周囲からの期待に応えたいという気持ちがありますから、(本人の願望) =

(親や周囲からの期待) となりがちです。期待が0なら式は成立しません。期待が高すぎるとは、子どもがどんなに頑張っても自尊感情は高くなりません。(参考：http://kotobank.jp/より「自尊感情」を検索)
 大切なのは、子どもたちがこうした意識が高まるような体験をしたり、言葉をかけられたりしているかです。そして、大人は自身の生き方や考え方が、子どもの意識が作られていく上での重要なモデルになっているということに自覚する必要があるそうです。

